

学術情報基盤オープンフォーラム2020コンテンツトラック2質疑応答まとめ

番号	発表	質問	回答	質問（総）	回答（総）
1	林	移行JAIRO Cloudで提供されているような、DSpace等からWEK03への移行ツールは提供されないのでしょうか、未定ということでしたら、どのようなプロセスを経て移行ツールの開発要望を決めることになりますでしょうか、移行ツールが無い状態では、3月分から当面の間、他リポジトリからWEK03への移行換えはできないということでしょうか、以上に加える正式アナウンスは出されるご予定ありますでしょうか、移行ツールの利用実績が少ない場合、品質面の懸念から当該ツールを利用するシステムベンダー側の評価結果/期間が発生する場合があります。エンドユーザーさまへの負担軽減の観点から、ツール公開にあたっては、事前に複数機関での実利用を行っていたいただけますと幸いです。	1) DSpace等からの移行ツール提供時期については、現時点では未定です。 2) 開発の可否については現時点でははっきりと申し上げることはできませんが、JPCOARと連携して、ご要望をお聞きしながら、進めていくことを想定しています。ツール開発にあたっては、ご指摘頂いた懸念事項を踏まえながら、進めたいと存じます。 3) なお、WEK02からWEK03への移行ツールについては、本番移行完了後、準備が整い次第公開します。現時点では、手間はありますが、既存の移行ツールを用いてWEK02に移行、そこからWEK03へ移行という手順となります。		
2	林	1) 確認になりますが、本学ではアイテムごとのURL付与にhandleシステムを用いていますが実装JAIRO Cloud(WEK03)でも引き続き使用は可能という理解で正しいでしょうか また可能な場合には、本学側でシステムを選択するCNR内へのURL実装通知が必要になるかと思いますが、他にも何か本学側で必要な作業はありますか 2) 昨年度の次期JAIRO Cloud(WEK03)に関する資料では、デジタルアーカイブの機能も新たに追加されるという趣旨のお話がありました。デジタルアーカイブ機能に関するその後の新しい情報などありましたら、ご教示下さい。	1) CNR handleの移行も行います。手続きについては、ご指摘の通りとなります。詳細は、移行計画の詳細連絡事にお伝えできればと思いますが、独自ドメイン機関と同様の連携が必要なケースとなりますので、注意して進めていければと考えております。 2) デジタルアーカイブ機能については、図書館総合展説明時からの大きなアップデートはございません。機能としては、manifest.jsonをプレビューワーで表示する、Image APIで登録画像を提供する機能ができていますが、まだ十分なテストができていない状況です。		
3	大谷	次期JAIRO Cloudの運用開始後、独自システムから次期JAIRO Cloudに移行したいと考えています。そうしたケースでもサポートや相談などは可能でしょうか。	JAIRO Cloud移行機関へのサポートも、JPCOARの作業計画にはいっておりますので、出来るだけサポートしていく予定です。同様の事情をお持ちの参加機関のみならず、相互に情報交換しながら進めていきたいと思います。		
4	林	2020年9月までに、独自構築システムからJAIRO Cloudへの移行を予定しております。10月に次期JAIRO Cloudへ移行されるのですが、独自構築システムからのJAIRO Cloudへの移行をする際に注意点がございましたら、ご教示いただけますでしょうか	概ね予定のモジュールはご利用いただかないようにお願いします。画面デザインについてはシンプルな構造のほうが再現性は高くなります。アイテムタイプについては、できるだけデフォルトアイテムタイプをご利用ください。		
5	三上	講義資料の拡充に働いていただきましたが、たとえば人物のメタデータについて人名とORCIDなどID記録したテーブルを機関で用意し、一括でインポートして事前に登録するといった機能はWEK03ではお持ちでしょうか。	移行JAIRO Cloudには著名者典拠DBがあり、一括登録・更新が可能です。この機能は次期JAIRO Cloudでも提供予定です。ただ、βテストではご確認いただけません。機能のイメージは移行JAIRO Cloudに近い形になる予定です。		
6	三上	研究データの公開において、国家安全保障との関係に問題がないことを確認するための手続きは、具体的にどのようになっていますでしょうか。また、今までの事例で課題となった点がありましたら、差し支えない範囲で教えていただけますでしょうか。	（発表者の所属機関において）現時点ではまだ手続きが定められている訳ではないため、個人的な考えとはなりますが回答いたします。 所属機関で国家安全保障についての取り扱いが定められている場合は、確認もそれに準拠する形で行うのがよいと考えています。 ただし、データの場合は当てはまる範囲が貨物の場合よりも限定され（参考：経済産業省の安全保障貿易管理Webページ https://www.meti.go.jp/policy/ampo/matrix_intro.html 内、技術のマトリクス表に当てはまる場合、研究データの中ではプログラムあるいはソースコードのみ該当しうる）、更に表の通り、該当する分野は限られるため、おそらくあまり発生しないケースだと思っています。 逆に言えば、国家安全保障輸出の制限に該当しうる分野やデータ形態については把握しておいて、チェックする体制があれば十分だと考えています。 今までの事例は、まだ3年で7件ほどと比較的に少ないためそこまで問題は出てきてはおりませんが、強いて言えば機関リポジトリの運用規程上、「未公開の研究成果」の公開の際には都度附属図書館館長の認可が必要ため、毎回決裁を取っているので、研究データの受け入れを広げる上では規則の整備が必要になってくると思います。		
7	片岡	次期JAIRO Cloudをデジタルアーカイブのプラットフォームの候補として検討しているため、デジタルアーカイブ対応に向けたJPCOARの検討のロードマップについて、ご教示いただけないでしょうか。	デジタルアーカイブの対応に向けた検討は、これから始めようとしているところであり、現在のところ明確なロードマップは策定できておりません。 JPCOARスキーマの改訂の規模がどの程度になるかは、今年度中にある程度の見通しを立てられればと思っておりますが、大幅な改訂となる場合は来年度以降の対応となる可能性もあります。 現時点では明確な情報をお知らせできず、申し訳ございません。		

8	林	1) コンテンツ作成の部分で「多言語コンテンツの統合が必要」の部分がよく分かりませんでした。これは例えば、リボトリの概要説明のようなページがあった場合、概要説明ページのウィジェットを追加し、その中に日本語と外国語のコンテンツを作成する必要があるということでしょうか 2) また上記に関して、異語別コンテンツというのは併置期まで追加可能でしょうか？「日本語のみ」、「日本語と英語」あるいは「日本語、英語、韓国語の3つ」など、様々なパターンが考えられますがどの程度対応可能でしょうか 3) 言語情報は一つ（日本語又は英語のいずれか）だけ持たせる、というような設定も可能なのでしょうか 4) 本書移行期間中に該当機関にトラブル（例えば、コロナ禍第2波の発生等）が発生し、必要な作業が行えなくなる場合、特定の機関のみ移行を一時見合わせる、といったような対応は可能なのでしょうか	1) ご認識のとおりです。ウィジェット単位で言語情報を持ちます。 2) 対応言語については、まずは日本語と英語を考えております。WEK03の機能としては複数言語に対応できるのですが、システムで利用しているラベルの翻訳が必要となるためです。ラベルの翻訳をご協力いただけるのであれば、可能性は広がるかと思われます。 3) 可能ですが、表示上の問題がでる可能性があります。基本的には同一デザインでの利用をイメージしております。 4) 600近くの引継し作業となるため現状では個別対応は考えておりません。βテストも自宅からの確認を想定し、IPアドレス接続制を取らない手法としました。基本的に在宅勤務でも確認可能なイメージを想定しております。			
9	林	WEK03では登録した全データのテキストデータエクスポートは可能でしょうか？βテストや本書移行の際、juni2からJPCOARスキーマへの移行が正しく行われているかを確認するにあたって、恐らく大学独自のローカルなメタデータ要素のチェックが必要になると思うのですが、これらをチェックするにあたって、自機関の全データの一括ダウンロードを行い、Excel等で特定の項目をまとめてチェックできるといのですが、可能でしょうか。	一括ダウンロードの機能については、本書移行までには提供予定です。			
10	片岡	WEK03運用開始後、JPCOARスキーマの利用にあたって特に注意しておくべきこと等ありましたらご教示ください。	WEK03運用開始後の注意点については、細かい点ではjuni2とJPCOARスキーマではタイトルとその他のタイトルの示す意味合いが異なるなど、様々なものがあると考えられます。 今後予定されているβテスト等を通して事例を蓄積し、JPCOARスキーマガイドラインのFAQ等で情報共有できればと思います。 ご意見いただき、ありがとうございます。			
11	三上	参考になるワークフローありがとうございます。 1) 全ての条件をクリアし公開が確定したものにだけメタデータを付与するのでしょうか。非公開または公開猶予期間にあるデータにも付与することが望ましいように考えますが、いかがでしょうか。 2) メタデータの入力後、公開する前に、登録されたデータ自体の確認（信頼性や利用可能な状態かなど）の主体やタイミングは、どのようにお考えでしょうか。	1) については、非公開の場合でも、例えば研究者間でのみ共有したい、という場合にはリボトリ上でメタデータ（概要、連絡先、利用条件）のみを公開するのがよいと考えております。また、研究成果を可視化するという観点では最終的な共有の有無に関わらず、メタデータを作成するのが望ましいと思います（研究者の希望に沿った形・範囲で）。実のところ、公開猶予期間中のデータについては考えておりませんでした。論文のアーカイブの公開猶予と、研究データの公開猶予とは難かに意味合いが異なりますし、興味深い観点だと思います。上記と同じく、研究成果の可視化という点ではメタデータを付与することがよいと思います。 2) については、なかなか難しいところですが（本発表で「出版社のポリシーによる要諦の場合」を仮定したのは、実はこの議論を避けるためでもありました。ただし、「今後の課題」で述べた通り、今後は取り組む必要のある議論だと思います）。私の所属機関のリボトリ（北海道大学のHUSCAP）では「公表済か否か」を一つの登録基準にしています。その考えに沿えば「公開された論文に関連するデータである」場合はある程度の「信頼性がある」と見なすべく個人的には考えています。本公表かつ論文に紐づかない場合の信頼性は相当難しい問題と感じます（「所分野の先生でも内容がわからない」場合もあり得ます）。何かの形で信頼性の担保できるもののみを（機関内で）公開するか、あるいは信頼できなものでも広く受け入れるか—おたはらは、ポリシーや機関の方針にも依存する問題だ—と思います。また、利用可能な状態かの判断については一般的なフォーマット（csvや画像、音声など）であれば図書館（リボトリ管理）側で行うことができると思います。ただ、特殊なソフトウェア用の形式やフォーマット、またはソフトウェアコードの場合になると、図書館では難しい場合もあります。その場合は権利者とやり取りをしてもらうか、自己責任以上のサポートはできないと断るかなと考えています。（ソフトウェアコードの場合は「権利表記のみで自由に使用可能ですが、自己責任をお願いします」といったライセンスが比較的多いので（例：東京都が公開している「新型コロナウイルス対策サイト」のソースコードに使われているMITライセンス）、受け入れられやすさはあると個人的には思います）	1) 非公開データかつ制限付共有が可能であれば、私どももメタデータのみ公開は有効と考えています。共同研究等に発注する可能性も想定して進めることができますし、公開猶予期間においての可視化という観点もありがとうございます。 2) 組織として公開する場合、データの信頼性の担保は重要と考えています。議題がずれるかもしれませんが、リボトリ自体の利用条件について免責事項を設けることも視野に入れています。当方はレポートの付録データを概に公開（レポートとして出版）しているのですが、その発行にあたっては、研究者の所属部署での審査（閲読）と決裁によって質や信頼性の担保につとめております。データも同様の制度を検討中です。 利用可能性等の確認はおっしゃる通りで、データのキュレーションを行う上で研究者と図書館などとの分担や人材育成が課題だと感じています。 当方も研究データ公開に検討中で、皆様の検討や事例を参考とさせていただければと思います。ありがとうございます。		
12	林	デジタルアーカイブに関して、いっぽう項実施予定なのか、ご提示いただけないでしょうか。WEK03切替時には、導入されているのでしょうか。	デジタル・アーカイブ機能について、manifest.jsonおよびImage API機能については、開発は完了しており、テスト段階にあります。さらに高度な機能については、JPCOARでの検討も始まりつつあるので、そちらと連携しながら進めていきます。			
13	三上	研究データ公開にあたって、他部署に確認が必要な点もある、とのことでしたが（資料12枚目）、確認の要否の判断と実際の確認は、図書館もしくは研究者自身、どちらが行うイメージでしょうか。	確認の要否については、研究者自身が判断することを想定しております。 これは、研究データの中に確認が必要となりそうな点があるかは研究者の方がより正確に把握していると考えられるためです。ただし、どういった点が「確認が必要となりそうな点」であるかの情報については、図書館側から提供することが望ましいと思います。 また、実際の確認についても可能であれば研究者自身が行うイメージです。 確認の過程で起こり得る、公開できる内容の範囲や公開形態の調整は、データについて把握している研究者が行った方がスムーズだと思います。 こちらも同様に、連絡先などの情報提供は図書館が行うことが望ましいと考えています。			
14	林	本書移行スケジュールに関して2つの質問です。 1) 本書移行スケジュールのグループ分けはどのような観点でわけられるのでしょうか。 2) 私達からA〜Cまでの希望をお伝えしご配慮いただくことが可能でしょうか。（本書の場合、登録作業はほぼ2回のペースです。移行後確認作業が既読の登録時期とあわない場合、最も利用する一括登録の確認作業が年度末まで先送りになるためです。）	1) グループ分けについては、データ移行時間の観点、独自ドメイン・CNBハンドル等機関側の切替作業が発生する等を念頭に実施することを考えています。 2) 恐れ入りますが、600機関の引継し作業となるため、個別のご要望をお聞きすることは難しいです。ご質問いただいたのは機能の確認ということですので、デモサイトを構築するなどの検討を考えたいたと思います。			

15	前田	シチズンサイエンス的に図書館員ほどの専門家でもなくもキュレーションを行うことができるような仕組みがあるとおもしろいと思いました。例えば、CINii Articlesの著者名寄せは機械+人力でやっているのでも、もしかするとその知見の積み上げが参考になるのではと思いました。 CERNがJPCOARと連携する動機はわかりますが、JPCOARが他でもなくCERNのINSPIREと連携する動機には何が考えられますか？	ご提案とご質問をありがとうございます。 CINii Articlesの名寄せは手法としても参考になりそうですしCINii Articlesの著者情報を使えないかという別のアプローチとしても活用を検討したいと思います。情報をいただきましてありがとうございます。 ご質問のJPCOARがINSPIREと連携する動機は、正直むずかしいところがございます。これをとっかかりにさらに大きな画を描いて（データ・キュレーションや他分野への応用）それにつなげていく、最初の一歩という意味で連携していくことになるだろうと思います。高エネルギーのみに貢献するのではなく、その先を現在考えています。	そうなってくると、リポジトリの統合検査もある中で、双方のリポジトリのメタデータをそれぞれリッチにしていく必要は使用目的別は・・・やとか、いろいろ疑問が出てくるのですが、これは今後の課題ですね。著者の名寄せは研究所でも必要をされているのですが、今のところ、やってもやってもきりが無いという状態のようです。	最終的にはORCIDなどがっつり著者をトラッキングし、そこに論文を紐づけていければと思うのですが、それまでの間は数回でも考慮しつつ名寄せに取り組み、いく必要があるのかなと考えています。 今後とも引き続きよろしく願いいたします！
16	前田	キュレーション作業に伴う個人情報の取扱い、欧州GDPRの要請と相区・衝突することはないでしょうか？	GDPRの観点からご指摘をありがとうございます。未確認でございました。リモートキュレーションを本格運用する際にはキュレーションの運用協定を結ぶことになると思いますので、要確認項目としたいと思います。 重ねましてご指摘ありがとうございます。	日本の個人情報保護法と欧州GDPRはかなり異なるため、域内外のデータ移行が法的に問題にならないかなと思い、ご質問させていただきました。逆にいえば日本人の名寄せは日本国内で行ったほうが法的に楽なのかもしれません。	
17	柳岡	スライド6枚目の図で、データ提供元となる「日本の人文社会科学データの公開サイト」にWEKO3が挙げられていましたが、JAIRCloud以外のリポジトリから総合的データカタログにメタデータを提供することは可能でしょうか？	現在、学振で研究データを持つ機関に向けてデータカタログへのメタデータ提供をよびかける準備を行っています。JAIRCloudからだけではなく、自機関のリポジトリからメタデータを提供していただくことを検討していますが、その場合OAI-PMH、もしくはResourceSyncによるメタデータハブバースに対応し、学振が指定するスキーマでメタデータを提供することが条件になります。		
18	松村	学協会のOAI方針については、JSTが提供する学会を属にも最近OAI方針の有無を記述するフィールドが設けられているようです。 https://gakkaai.jst.go.jp/gakka/ 学協会の観点では重要して入力することになるため、こちらの仕組みや連携なども想定に含めていくとより反応が得られるのではないかと感じました。	コメントありがとうございます。把握しておりませんでした。 OAI方針の有無のみのようですので連携はむずかしそうですが、調査の際の参考になるかもしれません。確認させていただきます。		

※本ファイルは国立情報学研究所情報基盤オープンプラットフォーム2020コンテンツトラック2（2020/6/10開催）で頂いたご質問について、個人情報を削除し、回答を整理したうえで公表するものです。